



平成 28 年 7 月 1 日現在	
世帯数	2,833 世帯
男	3,428 人
女	3,542 人
総人口	6,970 人

児童センター 避難訓練



5月18日(水)、島立児童センターにて避難訓練が行われました。メインイベントは

地震体験車で、渚消防署から隊員の方々にお越しいただいて、総勢50名ほどの小学生が体験しました。

1年生は震度3、6年生は震度6弱といったぐあいに、学年が上がるにつれて体験する震度も上がります。ほとんどの児童が「面白い」「電車みたい」などと余裕を見せていましたが、隊員さんから「これは机も固定されているし時間も15秒間と短い。なにより、これから揺れるってわかってるから、身構えることが出来るんだよ」と注意を受けていました。

児童センターの職員さんも、新潟県中越地震(平成16年)を正確に再現した揺れを体験しました。最大震度7、30秒間ということで、児童から「がんばってー」と声援を受けな



がら、必死に机にしがみついていた。最後は、消防車の説明を受けて、避難訓練は終了となりました。

学校の宝 校歌を歌う

5月23日、松島中学校で5回目となる「校歌コンクール」が開催されました。

同校の校歌はPTAが主体となり地域から歌詞を募集して作られたもので、母校への誇り、校歌への思いを受け継ぐと校歌コンクールが始まりました。

生徒会役員による力強い歌声で幕が開き、クラスごとに「どんな目標を決めどのように練習してきたか」を紹介してから、思いのこもった歌声を体育館に響かせました。

審査員は地域の方々を務め、歌唱のほかに服装や態度・団結力、また、目標を意識した歌声であったかなどが審査され、学年ごと1クラスに優秀賞が贈られました。

新年度が始まって間もない時期のこのコンクールに向けて練習に



取り組みは、クラスの良いまとまりにつながっているそうです。

5部門委員会の活動 企画委員会

7月7日

島立公民館において企画委員会が開催されました。各町会の公民館長が委員になり、地区の意見や要望を聴取しながら、公民館事業を企画したり、公民館事業推進に必要な研究・提言を行っています。



今回の会議では、10月に行われるスポーツフェスティバルや、町内公民館長会主催講座についての話し合い等が行われました。

町内公民館長会会長で、女性公民館長の藤森さんが委員長となり、和気あいあいと、スムーズに会議が進められました。

会議終了後、島立初の女性公民館長ということで、藤森さんにお話をうかがいました。

町内公民館長になった当初はとにかく、今までの雰囲気を変えたくらいという思いがあったこと、9人の館長たちが温かく受け入れてくれたので不安なくとても楽しく、勉強させてもらっているということでした。

馬耕体験



今ではほとんど失われてしまった伝統的な馬耕技術を伝えようとする活動が、松本大学などのチームにより生坂村で始められたのは5年前のこと。今年も4月30日に新村の柳澤さんの田で行われました。

この馬耕体験には、島立から堀米十日会・ソバ会の皆さんが協力団体として当初から参加しています。

さて、当日準備されたのは、ペロシユロン種という戦場で大砲を曳くのに使われたという、木曽馬の2倍くらいもある大型の馬で、木製の耕犁を軽々と曳いていきます。

会場では馬耕の経験を持つメンバーの模範演技に続いて、集まった子どもたちが畔の上からの仲間の声援を受けて、メンバーの手を借り、大きな馬に引張られながらも力一杯田を起しました。

会場に見学に来た家族連れなどは約300人、子どもたちはアトラクションのポニーの乗馬体験を楽しみ、島立から参加した郷土民族研究グループ、堀米十日会・ソバ会のメンバー、松本大学のゼミ学生などが準備してくれた豚汁を味わって、五月晴れの空の下の半日を楽しみました。

参加した子どもたちは「むずかしかったが楽しかった。来年もまたやりたい」などと話していました。

島立探訪

島立の
道と水

野麦街道

―飛騨ブリと信飛交流の道―

島立を通っている最大の交通量を持つていた街道は何と云っても野麦街道、松本から野麦峠を越えて飛騨の高山まで飛騨山脈を横断する、かつては日本最高所を通過する国道級の道路でした。

信州、とくに松本地方の人たちにとってはこの街道に対する特別な親近感は正月のご馳走「ブリ」がこの道を運ばれてくる「ブリの道」だったことでしょう。

年取り魚はほぼフォッサマグナを境に西はブリ、東はサケと云われていますが、松本地方ではこの年取りの「ブリ」は遠路はるばる運ばれてくる非常に貴重な魚でした。何しろ1匹で米1俵の値段と云うのですから、昔は誰でも買えるというものではなかったのです。

ブリは11月頃に富山湾の水見あたりで漁獲され、神通川を遡って古川・高山あたりまで生魚の状態で牛馬の背で運ばれ、ここで塩蔵魚に加工されます。これから野麦道を運

ばれるのですが、雪の多い参道は牛馬の背で運ぶことは困難ですから、難路は歩荷の背に負われて野麦峠を越え、寄合渡から稲核・島々などを経て松本まで運ばれました。この半月ほどの輸送中に塩が滲みて独特の風味が生まれたそうですが、150キロの山道の輸送で値段の方も何倍にもなったのです。

信州で年取り魚として大人気で利益も大きい塩ブリに目をつけたのが飛騨の商人たち、正月用に大量に信州へ出荷して大きな利益を上げたのです。

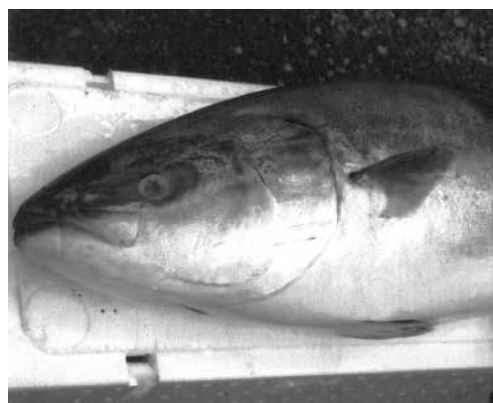
実は1000メートルを超える高い峠越えなどがなく輸送などの点で問題の少ないのはこの野麦ルートではなく、千国道(塩の道)の方で、あまり知られていませんが姫川ルートで送られるブリも飛騨ブリとほぼ同量あったと云います。しかし「越後ブリ」と云う銘柄のブリに関する記録はお目にかかりません。

さて野麦道は鉄道以前の海産物の信州への輸送路として重要なルートだったのですが、江戸後期には日本地図の作成で知られる伊能忠敬の測量隊が野麦峠から蓼原に出て、木曾路を松本会田に向かってい

ます。残念ながら伊能先生は島立は通ってくれませんでしたがこの頃は蓼原ルートが本通りだったのです。

また明治初年のごく短期間、筑摩県時代には松本の県庁と高山の支庁とを結ぶ政治路線としての重要性があつたはずですが、この時期、松本・高山をどのようにに結んでいたか詳しい記録はないようです。

高山線開通以前の岡谷などの製糸女工の移動コースとしても知られていますが、このコースも寄合渡からは境峠・蓼原・桑崎のコースが一般には使われていたようです。



島立中央保育園 交通安全教室



5月11日、島立中央保育園では、島立交通安全協会、島立交番、松本市交通安全指導員をお迎えして、親子交通安全教室がリズム室と周辺道路にて開かれました。松本市交通安全指導員の方からは、道を歩く時の三つの約束、親子の手のつなぎ方・道路の渡り方・信号機のある横断歩道の渡り方を教えていただきました。なお保護者には、子供が自動車に気付かずスッと飛び出してくる事や、コンビニ・スーパーで、車がバックする時に子供が車体の陰に隠れてしまい巻き込まれる事故が多く発生しており、運転者は、後ろの安全を確認して欲しい事を話されました。

その後、親子で手を繋ぎ保育園周辺道路にて、教えてもらった事を思い出しながら親子で、真つ直ぐ手を上げて横断歩道や道を渡りました。

島立地区町会対抗 球技大会(5月)の結果

5月29日(日)に島立地区町会対抗球技大会が盛大に開催されました。各種目の結果は次の通りです。

《ゲートボール》

●60歳以上の部

優勝：南栗
準優勝：堀米
第3位：大庭

●一般の部

優勝：堀米
準優勝：大庭
第3位：町区

《卓球》

優勝：北栗
準優勝：南栗
第3位：堀米

《ソフトバレーボール》

優勝：南栗A
準優勝：中村
第3位：北栗B

5月30日号の訂正について (お詫び)

前号5月30日号に掲載の記事「平成28年度 島立の役員(敬称略)」において、堀米の浅野町会長は町会連合会の副会長を務めています。正しくは「堀米」○浅野 毅」となります。(○印は副会長を表します)

深くお詫び申し上げます。ここに訂正いたします。